第６学年　　道徳科学習指導案

１　主題名　　友達だから　Ｂ－１０［友情、信頼］

　　教材名　　コスモスの花　出典：道徳６　きみがいちばんひかるとき（光村図書）

２　主題について

（１）ねらい

　よりよい友達関係を築くには、友達どうしが互いに相手の立場に立ち、相手の気持ちに寄り添うことが大切である。その際には、相手を尊重して、認めるとともに、信頼してよりよい友達関係を築いていこうとする心が必要である。友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、児童にとっては最も重要な人間関係の一つである。友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かに大きく影響を受けることも少なくない。友情によって結ばれた友達は、子どもたち一人一人にとって豊かに生きるうえで、かけがえのない存在となり得る。しかし、自分本位の考え方や行動から、友達を傷つけてしまうことがある。自分ではそれに気付かない場合もあり、このような状況に陥ると、信頼感や友情を育むことが難しくなる。そこで、相手の立場に立ち、相手の気持ちに寄り添って考えることで、よりよい関係を築いていこうとする心を育てたい。

（２）児童の実態について

　本学級は、男女問わず協力し、助け合って生活することができる児童が多い。６月に実施した道徳のアンケートの質問内容「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合うことができる」では、「そう思う」３人、「どちらかといえばそう思う」５人、「どちらかといえばそう思わない」１人、「そう思わない」１人であった。このアンケートから、多くの子どもたちが相手を信頼して学び合い、協力し合っていると感じていることが分かる。しかし、実生活の場面を見てみると、相手の行動を自分本位な考えと勝手な憶測で決めつけたり、友達の成長を認められず、発言の内容ではなく発言した人を批判したりする姿が見られる。その結果、言い争いになったり、良好な人間関係を保てなくなったりしてしまうことがある。そこで、相手の立場に立って物事を考えるとともに、相手の気持ちに寄り添うことで、相手を尊重して信頼し、よりよい友達関係を築くことができる児童を育てていきたい。

（３）指導について

　本教材は、いつも積極的で運動神経もよい「ぼく」（玉木）を中心とした話である。自分の方が優位に立っていると感じていた相手（北山）が、周りのクラスメートに認められたときに反感を感じたり、北山を悪く言う声には、「やめろよ」と声を出してしまったりする「ぼく」の姿を通して、友達とはどのような存在なのかを考えることができる教材である。

　指導にあたっては、登場人物の気持ちや言動に着目して学習活動を展開する。まず、ぼくと北山の人間性や関係性に気付かせる。次に、「自ら考え、議論する道徳」を実現する工夫として、「ぼくと北山は本当の友達と言えるか言えないか」について、立場を決めて話し合う。自分と同じ立場や違う立場の人の意見を聞いたり、自分の考えを話したりする活動を通して、友達とはどのような存在なのかについて考えさせる。最後の場面では、ぼくと北山が「本当の友達」になるために必要な心を考えさせる。多様な「心」に触れることで、よりよい友達関係を築くうえで大切な心に気付かせたい。今回の授業が、児童にとって相手の気持ちを考えて行動することの第一歩となることを期待している。

３　本時の学習

（１）ねらい　友達とはどのような存在なのかについて考えることで、真の友情を育て、互いを尊重し

合うよりよい関係を築いていこうとする心情を育てる。

（２）準　備　【教師】挿絵、バロメーター、ネームプレート、センテンスカード、ワークシート

【児童】教科書

（３）展　開

|  |  |
| --- | --- |
| 学　　習　　活　　動 | ◆支援　◎評価 |
| １　「本当の友達」とは、どんな友達か考える。【個→全】  ・仲が良い人　　　　　・困っている時に助けてくれる人  ・何でも相談できる人　・気が合う人  ２　『コスモスの花』の範読を聞き、ぼく（玉木くん）と北山くんの人柄や性格、内容について確認する。【全】  　・ぼく………積極的、サッカーがうまい、クラスで目立つ  　・北山くん…のんびり、自分でシュートしない、目立たない  ぼく（玉木くん）と北山くんは、本当の友達と言えますか  ３　ぼく（玉木くん）と北山くんの関係性について考えたことをノートに書き、意見交流する。【個→全】  【言える】  　　　　・気が合うし、いつも一緒に過ごしているから。  　　　　・最後は、北山くんを守っているから。  　　　　・クラスの女子に指摘されたときに、北山くんが心配  していたから。北山くんも友達だと思っていると感  じたから。  　　　　・途中では、北山くんのことを悪く言っているけれど、最後は周りの子に注意して守っているから。  　　 ・対等な関係ではないけれど、気が合っていつも一緒にいるから  　 ・北山くんを下に見ている気がするから。  　 ・北山くんがみんなから注目されて、気に入らないと感じていたから。  　【言えない】  ぼく（玉木くん）と北山くんが、本当の友達になるために必要な心とは何だろう  ４　友達に必要な心について考えたことを、伝え合う。【全】  　・お互いのよさを認め合える心  　・相手を尊敬する心　・助け合う心  ５　「本当の友達」について、今の考えや思いを振り返る。  【個→全】  　・相手のよさを素直に認めることが大切だと思った。  　・もっと相手のことを理解し、ともに助け合っていきたい。 | ◆ねらいとする価値への方向付けのために、児童の言葉を引用して、それぞれが現時点でもっている友達像について確認する。  ◆二人の関係を捉えて考えることができるように、二人の人柄を対比させて板書する。  ◆対教師だけでなく、児童同士が互いに表情を見ながら考えを深められるように、机の配置をコの字型にする。  ◆自他の考えや思考の変容を可視化できるように、心のバロメーターとネームプレートを活用する。  ◆友達の成功や活躍をうらやましく思うぼくの気持ちに共感させるために、「みんなもこんな風に思ったことない？」と補助発問する。  ◆言えるに意見が偏った時には、「二人は対等の関係なのかな？」と揺さぶりをかける。  ◆自分の考えを広めたり深めたりするために、クラス全体で共有し友達の多様な意見に触れる機会を設定する。  ◎互いを尊重し合うよりよい関係を築いていこうとする気持ちを高めることができたか。  （ワークシート、発言、話し合いの様子） |